先　　名 教育課長	ただいまより、令和6年第1回雨竜町総合教育会議を開会いたします。 開会にあたりまして、白川町長よりご挨拶申し上げます。
町　　長	町長開会挨拶
先　　名 教育課長	大熊委員が就任後、初めての総合教育会議出席とのこともあり、雨竜町総合教育会議の概要について説明させていただきます。 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正によりまして平成27年度より全国のすべての自治体において総合教育会議が設置され議論が行われることとなりました。町長部局と教育委員会部局が日頃から意思疎通を図り、教育に関する様々な議題について、相互が共通認識を持ち今後の教育課題を解消すべく毎年総合教育会議を行っているところです。 なお、令和3年から雨竜町総合教育会議では教育に関連する雨竜町施策の説明並びに町長との意見交換実施の2点を協議事項にすることを基本としております。このことにより教育に関する現状や教育推進について双方が確認することができる場となるものでございます。 これより白川町長の進行により会議を進めてまいります。
町　　長	それではただいまから私の進行により会議を進めさせていただきます。 前回会議録の承認でございますけれども、出席委員の署名をいただいておりますので、承認済みといたします。 次に協議事項に入ります。 (1)雨竜町における教育に関連する施策の説明で、今回は「地域創生事業を活用した学びの充実について」を議題とさせていただきます。 この事業を所管する総務課より出席しておりますので説明願います。
安　　田 総務課長	協議事項の一点目ですが、雨竜町における教育に関する施策の説明ということで、テーマ「地方創生事業を活用した学びの充実について」ということです。この事業の内容としましては、ふるさと納税支援業務の企業提案の中で予定されているものがあります。 この事業内容について資料により担当主幹より説明をいたします。
長　　原 企画財政 主　　幹	(地方創生事業を活用した学びの充実について説明)
町　　長	ただいま説明がありました。 今までも教育部門の予算編成で、例えば田中学園との交流などを教育費の中で計上していたのですが、ふるさと納税を金額をたくさん集めるだけではなく、それぞれの効果をどう繋げていくかということで、今までふるさと納税を担当していただいた業者を含めて、広くプロポーザル・提案型の意見を頂き、その中で各課の担当がここを雇うと可能性が広がるのではないかと投票していただいて、一番得票が多く、皆さんの共感を得たというのが、先ほどのお話の会社であったということです。今までとは少し異なる取り組みとなるのですが、やっていたことをさらに膨らませ広げていくということや、今までやっていなかったこともふるさと納税と絡めてイベント的に行えるのではないかということです。中にはこういう事業に共感して個人だけではなく、企業からのふるさと納税も期待をしているということであります。

町　　長	今すぐこれら全部ができるというわけではなく、ふるさと納税の中の寄付を使っての部分なので少しずつ中身が豊富化されるといいますか、広がっていくということで、今可能性として考えられることがこういったもですが、今後進めて行く間に更に膨らんでいくこともあろうかと思いますし、個人や企業の参加により形が変わっていくこともあろうかと思います。そういったことを今回「地方創生事業」にひとまとめにしたということであります。 子どもたちが中心になっている部分と保護者の関係、高齢者を含めた関係、さらには町外からの参加を含めて、交流人口を増やしていきたいといったことが今回の特徴であります。 みなさんの方からご質問、ご意見がございましたら伺いたいと思います。
浦本職務代理	昨日、北海道新聞にて早速、支援関係の計上案ということで見ました。 田中学園の関係が教育予算から外れてこちらの方で抱き合わせになったということが理解できました。 新聞では事業費1千4百万円ということで、全てが入っているわけではないでしょうが、教育支援を今までとは違うやり方で行っていくということで、今までの会議でも特に話が出ている英語をいかに高めるかということから、今現在町でやって頂いているジュニアスクールではやられていない事なので、この事業が実現できれば子どもたちにとっては非常に良いことだと思います。 事業費的にも大きいのですが、今後も継続していただければと思います。 ふるさと納税を子供たちのことに活用するということは使い道としては理解していただけることだと思います。
町　　長	他にどうでしょうか。
宮武委員	今、浦本委員からもありましたように、英語塾については教育委員会としても度々意見が上がっており、必要な時代が来たのかなと感じています。 お試しということで年20回ということですがこちらもこの先納税者が増えてもっと回数が増えればより英語の力がつくのかなと思います。 ゆくゆくは週1回、週2回となるような方向性を考えて頂ければと思いました。
町　　長	今まで小学校に英語の教科が入る前には、中学校にAETが平成の前半くらいから入って頂いておりました。しかし時期が来れば、先生が変わっていくもので、その時々で長くいて下さる方もいれば、すぐに変わってしまう方もいます。また、地域に溶け込んで色々なイベントに参加していただいたり、教育委員会のプログラムの英語教室をやっていただくことなども波がありました。 最近はAETをお願いするにあたり、企業、人材派遣会社に委託をしているのですが、そうするとやはり授業のみということも無きにしも非ずで、今回の北海道企画と関連している田中学園には英語の関係のスペシャリストの方もいらっしゃいますので、そういう方々に来ていただけると大変助かるなと思います。
大熊委員	昨晩、PTAの会議がありまして、その中で英語塾とプログラミング塾に関して校長、教頭共に喜んでおられたので現在、企画段階ではありますが、ぜひ開講をお願いしたいと思います。 親子スポーツに関しては町民対象なのか、町外からも呼びかけて行うのかお聞きしたいです。
長原企画財政主幹	基本的には大前提は町民対象としています。 他の塾などもそうですが基本、町民優先です。例えば参加枠に余りがある場合など、ふるさと納税でうまくやれないかなと思っています。都市の人に寄付していただき、参加していただくという仕組みを作ろうかと考えています。しかし、町としては町民で定員が埋まることが一番望ましいと考えています。

大熊委員	野球だったら北海道日本ハムファイターズ、バレーボールならアルテミス北海道と雨竜町は連携しているので、呼ぶと来やすいかと思います。サッカーは今連携しているところがないのでサッカーをしている子の親の意見として聞いて頂きたいのですが、北海道の社会人でBTOP北海道というチームがあり、2年ほど前になると思うのですが、コンサドーレ札幌を引退した選手が加入しキャプテンを務めており、その選手はコンサドーレのアカデミーのコーチを現在も務めている方で、親としても面白いなと思います。書道のつながりでいうと岩見沢教育大学が今、北海道の大学で一番で、ここもコンサドーレ札幌のアンダー18というプロ目前までいった選手が加入していたり、去年のキャプテンが川崎フロンターレ出身だったりと、現在良い選手が集まるチームとなっています。親としてはそういったチームに来ていただけるなら是非お金を払ってでも連れてきたいなと思っています。
長原企画財政主幹	基本的に今回の地方創生事業の業者さんの関係ですが、事業期間は3年間ということで考えています。初年度、今年6年度はとりあえず野球なのかなと考えています。今後については町内でも盛んなサッカーやバレーなど、その時の状況を踏まえながら検討していきたいと思います。
町長	今サッカーをやられているお子さんも多く、あちこちで活躍されていますね。 今はまず提案の段階であり、これから内容を詰めていくということでありますので、色々な可能性は広がっていくのかなと思います。 柴垣委員さんはどうでしょうか。
柴垣委員	事業期間が3年間ということですが、これが良ければその後も続けていくということでしょうか。
長原企画財政主幹	現在、ふるさと納税の支援業務ということで3年間の事業期間で業者選定を行っているところです。3年後、再度見直した中でそのまま継続するのか、より適したものになるのかをその3年間の中身をみてからの判断になるのかなと思っています。
柴垣委員	塾が良ければそのまま継続ということでしょうか。
長原企画財政主幹	ふるさと納税と切り離して単独の事業として展開するということも考えられるのかなとも思います。
町長	それでは次に進めさせていただいてもよろしいでしょうか。 次は意見交換ということで、課長の方から説明をお願いします。
先名教育課長	今回の総合教育会議における町長と教育委員の意見交換について説明いたします。 去る1月30日に開催しました第1回雨竜町教育委員会協議会におきまして、教育委員各位と町長との意見交換について協議を行い、テーマを雨竜町における特色ある学習活動についてと設定することになりました。 委員より自由闊達なご意見を頂きまして町長と議論した内容につきまして、今後の町政や教育行政の参考にさせていただきたいと考えております。 なお、今回の意見交換におきましては一定の結論を本日の会議の中で導くもの、更には結果を早急に求めるものではなく、委員各位と町長が教育に関する議論を深めることで教育振興に寄与するための話し合いであることをご承知おきいただきたいと思います。 限られた時間での意見交換となりますが双方有意義な形で行いたいと考えておりますので活発な議論を私の立場からもお願いを申し上げます。

町　　長	今、課長から説明があったとおりでありますけれども、意見交換ということであります。 雨竜町における特色ある学習活動ということで委員の方からご発言があればお願いしたいと思います。
浦本職務代　　理	私の方から意見交換の前に少しお話をさせていただきたいと思います。 白川町長とは昨年の6月、町長就任後第2回総合教育会議で、これからの雨竜町の教育についての意見交換をさせていただきました。その後、昨年9月末に沖舘職務代理が退任されましてその後私が職務代理を引継ぎさせていただきました。沖舘さんの退任後、大熊委員が就任されましたので新たなメンバーで会議に望ませていただきます。 白川町長におかれましては、昨年4月に町長に就任されてから間もなく1年となり、様々な公務に励まれている事と思います。副町長時代から雨竜町の教育推進にご理解いただき多くの　教育施策を行ってきております。教育委員の立場としては、これまでの教育施策の流れを踏襲しつつ、今後における学習課題への対応や新たな雨竜町独自の学習活動に着手いただければと思っております。本総合教育会議は、町長と教育委員が教育についての意見交換ができる貴重な場となりますので、本日の会議が双方にとって意義のあるものになるよう期待しておりますのでよろしくお願いいたします。 今日のテーマは、雨竜町における特色ある学習活動についてということですが、それぞれ取り組みをしていただいている中でジュニアスクールについて町長のお考えをお聞きしたいと思います。 町のジュニアスクールは平成26年に立ち上げて現在に至っており、開校から10年が経ちます。事務局からの報告では毎年、小中学生12人から16人くらいが受講されています。予算的に190万円の事業費をかけていただいており、私的にはもう少し受講生が増えてくれればよいと思っております。 子どもたちを教えている講師の方、指定管理者である五十嵐塾の五十嵐さんが開校時から教えて頂いているということで、非常にありがたく思っております。年齢をお聞きしますと76歳ということで、よくやって頂いていると思いますけれども、年齢的にも今後継続が不可能だと本人が判断されたときに、その後を引き継いで下さる方が町内に居るのかということが心配でもあります。 先ほどのお話から今後の事業のこともありますし、ジュニアスクールは今後どうなるのかをお聞かせいただければと思います。
町　　長	今、浦本委員からありましたように平成26年から五十嵐塾に雨竜町公民館の一室を使用して指定管理という形で最初は3年の指定期間、最近は1年ごとになっています。お話がありましたように講師の方の年齢的な部分で、ご本人は元気でおられますけれども、この先どのように続けていくかということと今いる受講生の問題です。 先ほどのふるさと納税における部分とは違い、全体的な話になるので塾という名称が付きながらも取り組みが少し違うかと思われ、いわゆる学習塾という取り組みになってきますと、最近は公設民営化、いわゆる運営は公費で賄い、先生を呼んできますというところも増えてきています。秩父別町さんがこのような形でやっておられると聞いております。 やはりそこのところはご本人もいつまでもとは言えない部分ではあると思われ、講師の先生のことも考えながら相談されていく形になると思いますが、次の形としてはやはり塾の先生が直接来ていただければいいのですが、なかなかそうはいかないのではないかと思います。 この先、うちの町だけではなく、地域全体的に子どもの数が減っていくということで、今滝川に多くの塾がありますが、大きなところが2ヶ所の他にも朝日町などにもあり、私の知っている限りでも3、4か所程あると思うのですが、そういったところもこれから同じように生徒さんが集まり、できるのかなと思っています。

町　　長	その中で先生方というのは、恐らく学校の数や教室の数が減ってくると減るのではないかと思います。だからと言って塾の先生を地元でやりますという方もなかなかいないのではと思うので、例えば地域おこし協力隊の中で、先生の資格があればなお良いのですが、そういう形で得意とする分野がある方に来ていただく、若しくは募集するとか、既存の塾をうちの町に持ってくるのは難しいと思うので、人を呼び込んでそこで続けて行っていただけるような人がいればと考えています。 やはりこれは継続していかなければならないと思います。学校の授業の他に家庭における学習の定着、習慣づけ、もう一つは受験対策として中学生になってくると必要性が増えてくるのではないかと思います。滝川まで通うとなると交通費などもかかりますので、そういった負担をなくすのであれば地元である方がなお良いのではと思います。あとはやはり、受講しているお子さんとそうでないお子さんがいらっしゃるのですが、できれば広く受講していただける方法も考えていかなければならないと思っております。すべてのお子さんが授業のあとにも勉強をしたいというわけではないでしょうけど、例えばその後すぐに他の習い事などに行かなければならないという場合であっても、少しの時間でも利用できるということであれば、時間的にある程度の幅を持たせることや次の講師の先生のことなど組織化したものを考えていかなければならないと思います。 今、公民館で夜間に開催しているのですが小学生高学年の時からと考えましてもなかなかそうはいかない部分もありまして、実際は中学生だとか部活が終わってからなどといった風にシフトされていくのかと思われますけれど、色々な学習の機会があればいいと思います。先ほどのふるさと納税における学校以外の取り組みがあったりとか、授業が終わった後の復習、次のための予習ですとかそういった機会があっても良いのではと思っています。学校の部分を補完するという意味では公設的ないわゆる教育予算でそういったものをセットしていく必要があるのかなと思われます。 あとは保護者の皆さんや子どもたちの考え方も出てくると思われますが、去年行われた中学3年生の子ども議会の中では学習をするスペースが欲しいと提案され、早速改善センターの一部に設けさせていただきまして、皆さん様々な学習のスタイルがあるようですので、そういったことも子どもさんの意向も聞きながら又は保護者の方、学校と連携しながら続けていけるような形をとっていきたいと思っております。 この地方創生事業とは少し違うかと思われますが、ここで先生が来てくれるのであれば尚よいのですが、なかなかそうはいかないので一つの方法としては若い人で来てもらうのであれば協力隊の方に来ていただいてずっとその方に定着していただくということもあるかと思います。そういうことを実際やっている所もありまして参考にしたいなと思っております。 今成績は新聞で発表されますけど必ず雨竜が出ています。少し英語が厳しかったように思えますが、これにつきましては色々な考え方がありまして、英語を小さい時から始めるのではなく、もっと国語を教えるべきだという学者さんもいれば、覚えるのは小さい時から始めるのが良いというような意見がありますけれども、色々なことができる機会があると他にはない特色ある施策だと思います。 皆さんの中で雨竜で是非やってみたいなどという方に心当たりのある方がいらっしゃいませんか。いらっしゃると大変ありがたいです。
宮武委員	過去数年来、総合教育会議の中で学力向上対策等々は提案し、色々お願いした中で指導員の先生もつけて頂き学習に関しては今町長が言われたようにそこそこ良い成績が残せているのが実態ではあるので、これは引き続きお願いしたい。その反面、逆に体力向上という点で先ほど教育委員会の方で令和5年の公表があり、結果が厳しいものであったということが実態でそちらの方の対策も何か今後町として考えて頂けないかなと思っています。

町　　長	ここ10年、15年ほどの間にお子さんの数が減って来ています。 こういう言い方はどうかと思いますが、たくさんいると競うといいますか、そういう機会も多く、子どもたちが一斉に、遊びに行くときも我先にという風に飛び出して行ったり、体育の授業の中でも団体で行う競技も日常的になってくるのですが、子どもの数が減ってくるとだんだんとそういった機会が減ってきているということですね。 また、兄弟のいる方が色々なスポーツをやっておられると、小さい頃からお兄さんお姉さんと共に関わる機会も増えてくると思うのですが、そういったことも段々と少なくなってきている気もします。そうして今、専門化といいますか小さい頃からそれぞれの競技に特化した専門的なコーチや指導者について指導を受けている子供さんはどんどんそちらの方に行くので、そうでないと山を走ったり川に入ったりして普段遊ぶことも少なくなって、基礎的な体力とかバランス、体幹とかをなかなか得られないのかなと感じています。 テストをどのような状況で行ったのかわかりませんが、子どもさんが少なくなり差が出てくると全体的に平均点も下がりますので、子どもの数が少ない中でもそういう機会があればいいと思っています。今は昼休みなども静かな感じで過ごしているのではないかと思っています。子どもが多い時は休み時間ごとに走り回ったりなどしていましたが、今は廊下を走って怒られるような子どもはいないのではないでしょうか。 また、人数が多いとお互いに元気を持て余してふざけ合うなどとそういった姿も少なくなってきているとすれば、数が少ないということは色々な面に影響してくのだと思います。 我々もそうですが、歩くことが少なくなってきていると思います。基礎的な体力や体幹、そういったものを鍛える機会が無いのかもしれません。 社会教育などで子どもを集めての教室などもありますがどうしても参加人数が限られてきてしまうこともあります。どうにかして、この日だけはみんなで何かをしましょうというようなことがあればいいと思います。 先ほどもありましたがサッカーやバスケットボール、野球、バレーボールなどにもプロがあり、見ることはあるのですがやる機会がないとうことでこれからもう少しやる機会が増えればと思います。 今保育園でも教室をやっていますが、年に1回イベント的に行うという感じですので少し機会は少ないかと思います。 昨日私は道場へ行ったのですが、その時にバレーボールのナイターリーグを行っていまして、その奥のコートでバドミントンを多くのお子さんが来てやっていました。面白内の小川さんご夫婦もやっておられて、昨日は結構な人数のお子さんが来ていました。 バレーボールなどは相手も含めるとある程度の人数が必要となりますが、1対1で行えるものだとやれる機会はあるのかなと。バドミントンは結構ハードなスポーツで、早い動きについていくための動体視力や俊敏さを養うなど、ずっと続けていくということではなくても、ちょっとやってみるのに良いスポーツではないかと思います。 あと、太鼓ですね。太鼓は体全体を使いますので、かなり体力がいるのではと思います。体力だけではなくリズム感も養われますし良いと思います。 色々な機会があって、身体を動かすこと、体力の向上に結びつけていけたらいいなと思います。そういう事業も計画していかなければならないと思っています。 今回のテストの結果だけで体力が有るとか無いとか言われてしまって、子どもたちも可哀そうですが、全体値や平均値など結果を受けて色々なことができればと思っています。 自分はなかなか出来ていませんが、歩くことや走ることなど基礎的なことは大事だと思います。

宮武委員	「雨竜町における特色のある」ということで考えますと、例えば他所で言えば一輪車に力を入れている町などもありますし、少し昔はけん玉が流行っていただとか、そういった意味で雨竜で何か特色のある体力向上対策といいますか、もちろん走る事でも良いのです。 朝登校し、グラウンド1周走ったらポイントを付けて、それがある程度積み重なったら何かを得られるという、物で釣ると言ったら言い方が良くありませんが、そういったこともできれば、今後の体力向上につながるのではと感じまして、これは私が子どもの頃実際やっていたことでして、登校後にグラウンド1周しポイントをもらい満点になったら当時の内容は忘れましたがご褒美的なことがありました。そういうのも子どもは目標があると楽しみも増えるのかなと思うのでそういう対策等々もできればというのと、現在教育委員会主体でウッドスタートやブックスタートを行っていて、その考えでスポーツに関しても何々スタートというものができないのかなと思ってもいます。 とはいいましても、それが野球が良いのかサッカーが良いのか、子どもも選択があるので強制はないですし、子どもの数も減っていますので、町で競技を行うとしてもなかなか厳しい部分もあろうかと思います。先ほど言われましたバドミントンなら個人で行えますし、様々な考えがおありかと思いますが、今後さらに詰めていただけたらと思います。
町　　長	登校するところというのがポイントになりますね。 冬にはできませんが、通学路を歩いてくる際にカラーリングして、ここはケンケンで、ここはダッシュでなどと区間ごとに決めるなど。国道だと開発局が認めてくれるかどうか。
宮武委員	最近は車での送迎が多く見受けられます。そういった意味でも体力がなかなかつかないのかなとも感じます。 実際我が家も子どもがスクールバスを利用していまして、家の前で乗降車できるのですが、昔はバス停まで1キロ強歩いたりとそういった時代でした。
教 育 長	通学時の安全という観点で考えると、昔はあまりいませんでしたが、今は大人の変な人が増えてきていて小さな子どもだけで歩かせることなど保護者としても不安を感じているようです。 そうなるとスクールバスに乗せたり送迎したりとなるわけで、本来なら友達と道草しながらちょっと長い距離を歩くなどそういったことも良いのでしょうが、なかなかそういった機会を与えることが不安に思うのだと考えられます。 しばらく雨竜町で不審者は出ていませんが、色々な町で不審者が出ています。夏になるとさらに増えてくると考えられますのでそういった不安があるのではないでしょうか。
町　　長	子どもの数が多ければ登下校の列も長くなって皆さんの目に触れますが、少ないとなかなか気づかれないという場合もあります。 ポイントを貯めるとか目標を持たせる、ゲーム感覚などそういったことはキーワードになるかもしれません。
柴垣委員	学校訪問などでタブレットを使用した授業を拝見しまして、子どもたちの楽しそうに取り組んでいる姿が見られ、これからの社会においてパソコン関係などは必要となってくると思われます。そのためにも今後もこういったIT、ICT教育を継続していただきたいことと、それに伴い機器等もアップデートし、最新の状態での提供もお願いしたいと思います。 ただ、これればかりに頼らず「書く」授業といいますか、漢字が書けないなどという事の無いような対策もして頂きたいと思います。

町　　長	小さい頃からタブレットやスマホなども使用していますし、プログラミングなども出てきますので学校の教材としてはどんどん更新していき、雨竜町は国が進めているGIGAスクールを少し早めに始めていますので、その更新の時期にはもれなくやっていきたいと思っています。 今年も新しい学習ソフトを入れてより教材として使える、先生とのやり取りもスムーズに行えるなどどんどん予算化していきたいと思います。 今、役所の中でもデジタル化を進めていまして、業務の効率化を図っているのですが、町民の皆さんからは「それが入ったからと言ってどうなの」というような質問が無いわけではないのですが、子どもたちに一台ずつ行きわたっているという目に見えている部分がありますので、有効に使われて家庭でも定着していけばと思います。今は通信環境も整っていますのでそういった面ではこれからどんどん増えてくると思います。 現在コロナは落ち着いてきましたが、登校ができないような状況などもあり、今後はむしろ無くてはならないものだと思いますので、更新のタイミングは遅らせることはできないと思っています。時代に合った教育環境を整えますと申し上げていますので約束させていただきます。 自分たちがよく使えていなくて、子どもたちの方が早く覚えて使いこなしていますね。 ただその反面、書くことが出来なくなると文字の変換間違えや意味は同じでも漢字が違うなどということもありますので並行して行く必要があると思います。書かなくなると字が出て来なくなってきます。 私はアナログなので書いておかないと頭の中に残像が残らなくて、書いて覚えるというスタイルでしたが、今は書いたものでは出せないのでデータで残しておくということになりますが、その両方を行うことが良いのかなと思います。今は効率的に、いかに早く行うかということが言われています。人工知能を使って答えや例えが即座に出てきます。そういったものが今後使われてくると思いますが、ただその情報が正しいかを見極めなければなりませんので、並行して色々な考え方ですとか、想像するとか組み立てるなどといった様々な働きを出来るような形にできたらと思います。 あとはやはり運動の部分との兼ね合いと言いますか体を動かすことによって脳の働きというのがあるやに聞きますのでそういったこともできればいいです。
大熊委員	先日の運営協議会とPTAの会議、ここでの教育会議など様々な会議体で話題になっていますが、ここ5年のうちに複式・複学になってきてしまうというお話が出ています。 複式になった場合、例えば3年生4年生であれば教員一人つくのが通常だと思います。ですが可能であれば町の方で予算立てして頂き、教員を一人増やして、一学年一教員をぜひ目指して頂ければと思います。 転校生が沢山来なければ複式は免れない状況だと思いますが、それに伴い教室の整備なども必要になってくるとも思います。私の身内が多度志で複式を経験していまして、多度志の方では児童生徒が背中合わせになって移動式黒板を2台、モニタも2台設置していたようです。 雨竜町ではどのようなお考えがあるのか、それに伴い子どもが減少するということはPTA会員、保護者も必然的に減少します。現在田中学園との連携事業でPTA生活部の方で田植えから稲刈りまでを連携事業として行っているのですが、PTA会員数が減っていくと今後は厳しくなるのではと感じています。この連携事業の方もどのように継続していくのかお伺いいたします。
町　　長	複式学級は以前から想定されてきたのですが、今現時点でどのようにするかというところまでは及んでいないというのが正直なところです。 一学年一教員というのが理想とするところです。ただその時に先生方がうまくいらっしゃるかという点ですね。この後に教員を目指す方々が様々な条件やスキルなどがうちで必要としている先生と合うかということがあるかと思います。 一学年一教員というのが理想ではありますが、配置の部分で他の教育委員会がどのような形をとるのか、また特色ある学習活動には定員にプラスアルファして来ていただくとか今までもありましたが、それが可能なのかといったことも考えていかなければならないと思います。

町　　長	支援の必要なお子さんがあるとするならば、これまでのように寄り添っていただく方への手当も必要となっていくかと思います。 PTA活動の部分につきましては、最近新聞にも掲載されていましたが、希望制といいますか、何か事業を行う際には常時委員会的な役員を貼り付けるのではなく、会長は決まっていますが、あとは募集し希望する方に参加していただくという形をとっているところもあるようです。 全体数が少なくなってくると色々な活動ができなくなってくるということなので、そこは学校だけではなくコミュニティスクールの関係でも色々な方々に関わって頂いており、そういった方々のお手伝いもいただけたらと思います。やはり負担がかかってしまいますとPTA活動そのものが遠のいてしまいがちで、過去には学年によってはなかなか役員が決まらないためスペシャルな決め方をしたところもあるようで、皆さん色々なことをされて、色々な仕事をされていますのでなかなか時間が取れないといったこともあるかもしれません。これから先、学校と先生方、PTA、地域との関りについて色々なところで話題になってくるのではと思います。 先ほどの連携事業に関しましては、色々な方の力をお借りしてやっていかなければと思いますので継続できるような形をとりたいと思います。 複式学級の教室の部分と先生の部分につきましては、まだ私の方で想像できておらず、単純に少なくなったら先生が一人になってしまうということで、学年差などもありますし、先生がつくことが良いのか支援員が良いのか何とも言えませんが、その時の人数や状況、学校全体の総数の中でどのように経営をされるかというような校長、教頭先生の考え方もあるかと思います。雨竜町の学校は今のところ校舎、建物施設一体型で小学校、中学校の先生方がいますのでそこが強みかなと思います。学校と教育委員会で相談して必要であればそこに手当をするように進めて行きたいと思います。
教 育 長	私、唯一複式学級を渭の津小学校で経験しておりまして、その当時は今のように黒板が上下するようなものではなく一つの黒板を使うのですが、3年生と4年生みんなが前を向いて座り、左側に4年生がいれば半分を4年生に使い4年生を教えている間3年生は自習をする、次に3年生を教えている間には隣で4年生が自習をするといった形でやっていました。ただやはり同じ教室にいるものですから自分が3年生の時には1学年上の4年生がいて、4年生になったらこんなことをするんだなという部分もわかります。4年生になった時には3年生の時にこんなことをやっていたんだなと復習の意味でそういう部分もあるのですが、これが前後でやってしまうと振り向いてしまうという可能性もあるわけで、同じ前を向いて真ん中を何かで仕切るとかそういう形もありなのかなと、決して前後で向きを変える必要はあるのかとも思います。 先生を二人付けることが一番良いのでしょうが、担任を一人置いて補助的に教員免許を所持している方を町で用意して配置するという形もありかなと思う部分もあります。 先生は基本的に教えなければならないので、片方の学年が自習の時にはその方が付いて指導していくという形もありなのでなと思います。 PTAから厳しい意見がある学校もあるそうですが、雨竜町は4年先になると思われますがその時には教育局とも相談しなければなりませんし、考えながら進めていけたらいいなと思っています。唯一の経験者なのでその当時のことではありますが、どうだったかお話しできるのではと思います。 複式学級はマイナスな面もあればプラスの面もあることをご理解ください。
町　　長	予定の時間も参りましたので、他にありませんか。
全 委 員	（なしの声あり）
町　　長	それではお礼を申し上げて、会の方を閉じさせていただきます。 本日はいろいろなご意見を頂戴して大変ありがとうございました。 令和6年第1回雨竜町総合教育会議を閉じさせていただきます。 ありがとうございました。